

解説

保健の授業で育成される資質・能力に関する一考察 —指導者の指導観と生徒の記述に着目して— 高等学校

保健体育科 授業者：丸山実花（附属高高等学校教諭）

佐藤 健太（フランクフルト日本人国際学校）

解説タイトル：保健の授業の学習活動が育成する複数のコンピテンシー
コンピテンシー育成開発研究所 特任准教授 下島泰子

本実践はどのようなコンピテンシーが保健の授業で育成できるかを生徒の視点から検討したものである。生徒に質問紙調査を行い、教員の期待する資質・能力と比較した結果、「批判的思考力」と「省察的思考力」の育成については教師と生徒の捉え方は一致していたが、「自己制御力」と「エージェンシー」については、教師が期待するよりも生徒自身が育成を実感していた。

保健の授業は学習内容（喫煙、飲酒、精神疾患など）そのものが実生活に役立ち、思考力を促すものであるが、学習内容に加えて、両教諭が考案した学習活動（ヘルスピーチ、人体実験レポート、スクラップ・ノート、グループ発表など）が様々なコンピテンシーを育成しうることが示された。